

## 1 学校教育目標

進んで学ぶ人 心身を鍛える人 思いやりのある人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○確かな学力を身に付けさせる学校</li> <li>○心身ともに健やかな生徒を育てる学校</li> <li>○生徒、保護者、地域から信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標をもち、自ら進んで学習に取り組む生徒</li> <li>○心身ともに健康で、自らの課題に一生懸命に取り組む生徒</li> <li>○礼儀や思いやりを大切にし、規律ある行動ができる生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善に向け、日々研究、実践に努める教師</li> <li>○生徒一人ひとりを理解し、温かな気持ちをもって生徒の健全育成に努める教師</li> <li>○教育公務員としての自覚と誇りをもって職務に励む教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状】

○学校について

〔良さ〕 落ち着いた、和やかな雰囲気の中で日々の教育活動が行われている。

〔課題〕 学校行事への取り組み方を見直し、実施することで、生徒の達成感と成長につなげていく。

○生徒について

〔良さ〕 素直で明るい生徒が多く、指導を受け入れ成長しようとしている。

〔課題〕 自ら課題を見つけ、失敗を恐れずに挑戦、成長しようとする姿勢をさらに身に付けさせる。

○教師について

〔良さ〕 生徒の成長のために熱心に指導に取り組むことができる。

〔課題〕 オンオフを切り替え、生き生きと職務に取り組むことができるようにする。

### 【前年度の成果と課題】

【成果】 ○学校行事をとおしてお互いの良さを認め、目標に向かって活動する楽しさを感じさせることができた。

○不登校生徒について、関係諸機関との連携をさらに推進できた。

【課題】 ○わかる、楽しいと感じることのできるよう授業改善を進める。

○自己肯定感をさらに育成するために、お互いを認め合える場を設定するとともに、自らの役割を果たすことの大切さを理解させる。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健やかな体の育成	○	○	○	○	○

## 5 令和6年度の重点目標

<b>重点的な取組事項－1</b>	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
自ら考え、学ぶ生徒の育成	年度末到達度確認テスト平均正答率65%以上 令和6年度区調査通過率65%以上	年度末到達度確認テスト平均正答率61.6% 令和6年度区調査通過率75.7%	年度末到達度確認テスト平均正答率は目標まで3.4%届かなかった。 令和6年度区調査通過率は目標を10.7%上回った。	○

### B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続 (改善)	授業改善	全教員 全教科	通年	教員の授業力の向上 ・ねらいの提示、振り返りの実施による確実な定着 ・主体的に学習に取り組む姿勢を認める工夫 ・教科指導専門員の活用、OJT組織の活性化	・生徒アンケート ・振り返りシート ・授業観察	・「授業の内容をしっかりと理解できた」85%以上 ・「授業が充実して学んでいる楽しさを感じた」85%以上	・「授業の内容をしっかりと理解できた」88.4% 前年度から1.6%増加。 ・「授業が充実して学んでいる楽しさを感じた」87.5% 前年度から1.7%増加 ・教員がお互いの授業を見学し評価シートに記入するなどして研修した。	・授業がわかる、充実していると感じている生徒が年々増加している。 ・授業のねらいを提示することで何ができるようになるべきかがわかりやすい。 ・授業内で生徒が考えを深めたり、表現したりする場面を設定している。	○

2 継続 (改善)	家庭学習 の充実	全生徒 全教科	通年	授業での振り返りをもと にした主体的な家庭学習 を目指す	・生徒アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習を するときの勉強 内容、方法が わかる」70%以上</li> <li>・「1日平均30 分以上、家庭学 習をする習慣 が身について いる」65%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習を するときの勉強 内容、方法が わかる」74.7% 前年度から2.6% 増加</li> <li>・「1日平均30 分以上、家庭学 習をする習慣 が身について いる」69.6% 前 年度から7.2% 増加</li> <li>・毎月2～3回 実施している放 課後自習教室 (希望制)に参 加する生徒が 毎回60名程 度いる。参加 生徒は必要 な教材を持 参し、教員 や学習ボ ランティア に教えて もらう 習慣が でき てい る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でのめあ ての提示と 振り返り の実施 により、 自分 にと って 必要 な学 習 内 容 が わ か る よ う に な っ た。 学 習 方 法 に つ い て も 指 導 し て き た 結 果 、 自 ら 考 え て 家 庭 学 習 に 取 り 組 も う と す る 生 徒 が 増 え て き た。</li> <li>・放課後自習 教室が 定着し 、進ん で学 習し よう とい う雰 囲気 づ く り が でき て き た。</li> </ul>	○
3 継続 (改善)	ICTの活用	全教員 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での効果 的な活用</li> <li>・家庭学習での AIドリル、 学習者用 デジタル 教科書の 活用</li> <li>・調べ学習での 効果的な 活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員への アンケート</li> <li>・授業観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を 効果的に 活用し ている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区が求 めている ICT活 用能力 は、ほ とん ど の 教 員 が 身 に 付 け て い る。</li> <li>・場面と 効果を 考え てICT 機器 を活 用し てい る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、 教育活 動の DXの 実現 に向 けて 研 修 を 進 め る 必 要 が あ る。</li> </ul>	○

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心を耕す活動の推進		生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 90%以上	目標実現に向けた各取り組みにおいてすべての項目で、肯定的回答が前年度より増加した。7 項目中 4 項目が 90%を超えている。	学校生活で達成感を感じている生徒がほとんどである。思いやりのある行動、居心地のよい学級づくりができて	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
主体的に考え、行動できる生徒の育成	生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの所属する集団をより良くするための生徒会活動、係活動の活性化</li> <li>・行事において生徒が自ら考え行動できる場面の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行事や委員会で自分の役割を考えて行動している」91.1% 前年度より 4.6%増加</li> <li>・各学年の学級委員等が、チャイム 2 分前着席など学年集団をより良くするための具体的な活動を提案し、呼びかけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活すべてにおいて、生徒に呼びかけ、考えさせてきた成果が表れたと考える。今後とも継続するとともに、自ら進んで、失敗を恐れずに行動できることを目指す。</li> </ul>	◎
自尊感情、自己肯定感の育成	生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく充実した授業の実践</li> <li>・行事の充実と部活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の内容をしっかりと理解できた」88.4% 前年度から 1.6%増加</li> <li>・「行事や体験活動に積極的に参加し、達成感を得られた」91.1% 前年度から 3%増加</li> <li>・「学習面や生活面で、先生に相談にのってもらっている」78.3% 前年度から 9.5%増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習や体験活動をとおして「できた」と言える場面を設定し、できたことを認めてきた成果が表れた。教員に相談できると考えている生徒も増加している。今後も自尊感情、自己肯定感を高めていく活動を継続する。</li> </ul>	◎

思いやりのある生徒の育成	生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いを認め合う場面の設定</li> <li>・道徳授業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思いやりをもって友人に接している」97.1% 前年度より1%増加</li> <li>・「学級の人に認められていると感じる」83.4% 前年度から10.2%増加</li> <li>・「学級での居心地が良く、落ち着いて生活できている」91% 前年度から2.6%増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりをもち、お互いを認め合うことで、居心地の良い学級が実現できている。</li> <li>・「学級の人に認められていると感じる」はわずかに目標値には届かなかったが、前年度から10%以上増加したことは喜ばしい。</li> </ul>	◎
いじめ・不登校への対策	いじめの早期発見、早期解決とともに、関係諸機関との連携を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QU調査の活用</li> <li>・特別支援委員会の充実</li> <li>・関係諸機関との連携</li> <li>・SNS 学校ルールの徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートやQU調査を活用し、いじめの早期発見、早期解決を図った。</li> <li>・特別支援委員会を定期的開催することできめ細かく生徒の様子を把握した。</li> <li>・不登校生徒を関係諸機関を連携して支援した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒の中には教室復帰できた生徒もいる。またほとんどの生徒が関係諸機関と連携して支援できている。今後も支援を継続する。</li> </ul>	○

重点的な取組事項－3		健やかな身体の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
健康な生活を身に付ける態度の育成	生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「食事や運動、睡眠など自分の健康に気をつけている」83.1% 前年度から3.3%増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健指導、食育、保健体育の授業での指導を行うことで、健康への意識を高めている。</li> </ul>	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力づくりの習慣の育成	生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠、食生活など体をつくる元となる事柄についての啓発</li> <li>・体力テスト結果を活用し、日常的な身体づくり運動の指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「食事や運動、睡眠など自分の健康に気をつけている」83.1% 前年度から3.3%増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育での体づくり運動や保健指導をとおして、日頃から健康を意識した生活をさせている。</li> </ul>	◎

健康教育の推進	健康保健教育指導を年3回実施	・小児生活習慣病検診の前後指導、歯科衛生指導、いのちの授業の実施	・健康保健教育指導を年3回、計画通りに実施した。 ・小児生活習慣病検診後の医療機関受診をするような仕組みをつくり、受診率が100%になった。 ・健康診断結果から受診勧告を行い、特に歯科においては改善点について個別指導をし、効果が表れている。	・自分の健康への興味・関心を高めることができた。 ・歯磨きの状態が良くない生徒もいるので、今後も指導を継続する。	◎
食育の推進	生徒アンケートの関連項目で食への関心の向上	・もりもり給食週間を中心とした活動をとおして食への関心の向上	・もりもり給食週間を中心として、栄養士を担任が食育に関する指導をした。 ・毎日の給食時間に給食の献立や食材に関する放送を行い、意識を高めた。もりもり給食週間には、生徒が調べた内容を放送した。	・食事の大切さやペットボトル飲料に含まれる糖分などについて、意識を高めることができてきている。今後も継続する。 ・残菜はとても少なくなった。	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項—1 学力向上アクションプラン

【成果】○授業がわかる、充実していると感じている生徒が年々増加している。

○自分にとって必要な内容を考えて学習することを指導してきた結果、内容、方法を考えたり、習慣を身に付けたりした生徒が増加した。

#### 【課題及び解決の方向性】

○ICT 機器をどの教科でも効果を考えて活用しているが、今後、教育活動のDXの実現に向けて研修を進める必要がある。

#### 重点的な取組事項—2 豊かな心の育成

【成果】○学校生活で達成感を感じたり、役割を考えて行動したりしている生徒が90%以上いる。

○思いやりをもって友人に接したり、お互いを認め合ったりしていることで、居心地の良い学級が実現できている。

#### 【課題及び解決の方向性】

○不登校生徒はやや減少しているとはいえ、まだ多い。しかし、ほとんどの生徒が関係諸機関と連携して支援できている。学校や社会との関係を保てるよう指導、支援を継続する。

#### 重点的な取組事項—3 健やかな身体の育成

【成果】○健康教育を推進したことで、健康な生活を身に付けようとする態度を育成することができた。特に健康診断後の受診率はとても良い。

#### 【課題及び解決の方向性】

○数名ではあるが、ゲームやインターネット等のデジタル機器を長時間使用している生徒もいる。中にはそのことによって昼夜逆転してしまう生徒もいるため、SNSルールを活用し、適切な使用方法、使用時間について考えさせていく。

## **(2) 保護者や地域へのメッセージ**

来校された方々から、必ずと言ってよいほど、「気持ちの良い挨拶ができる学校だ。」とお褒めの言葉をいただいています。生徒からのアンケート結果では、「落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができている」「思いやりをもって友人に接している」「学級での居心地が良く、落ち着いて生活できている」等、和やかで明るい学校の様子が表れています。また今年度は、「将来、どのような職業に就くか考えたり、希望をもったりすることができた」「クラスの人に認められていると感じる」「学習面や生活面で、先生に相談にのってもらっている」の項目への肯定的回答がそれぞれ前年度より約10%増加しています。安心して学校に通える気持ちの表れととらえ、大変にうれしく思っています。これも保護者の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝しております。生徒、保護者の皆様、地域の皆様の期待に応えられるよう、さらに努力いたします。

## **(3) その他（学校教育活動全般について）**

日頃から「自分で考え、進んで行動しよう」と生徒たちに呼びかけております。その結果、自分にとって必要な内容を考えて家庭学習で取り組んだり、行事や学校生活で、自分の役割を考えて行動し、所属する集団をより良くしようと努力したりする生徒が増えてきました。自らのなすべきことを考え、判断し、行動できる人になってもらいたいと願っておりますので、さらにこの姿勢を認め、励まし、力を伸ばせる学校にまいります。さらなるご理解とご協力をお願いいたします。